

## 第 18 期（2019 年度）事業報告 （2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日）

特定非営利活動法人 NPO 近畿水の塾は、第 18 期（2019 年度）の事業について、以下のとおり報告する。

### 1. 人と水との関わりに係る調査及び研究

#### ○継続的な公開研究会「河川塾」の開催

【実施内容】・「私の関わる水環境」などをテーマに、会員を含め会員外の各自の仕事や市民活動等の取り組み紹介を「河川塾」で実施した。

・近畿各地で、川歩きなどフィールドワークを積極的に実施した。

【実施場所】 Atelier（アトリエ）CK 等

【実施期間】 2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日（月 1 回程度）

### 2. 人と水との関わりに係る事業の企画及び実施

#### ○各種イベント、出前講座の実施

【実施内容】・「琵琶湖・淀川流域圏シンポジウム in 大阪一治水・環境・文化について考えよう」(5/18) に協力した。

・近畿各地から水環境保全に関心と関わりをもつ市民が集い、淀川流域の自然・文化・歴史を学ぶとともに、各地で進めている水環境保全活動を紹介し合い、よりよい河川環境保全と流域間連携のあり方について討論する「近畿水環境交流会 in 宇治川・伏見みなと」(7/27-7/28) を開催した。

・猪名川・藻川まつり(9月)の中で、E ポートによる水面利用イベントを企画実施した。

・猪名川・藻川の合流点にある、「豆島」を活かした地域活動に参画した。

【実施場所】 藻川等

【実施日時】 2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日

### 3. 人と水との関わりに係る行政機関、各種事業主体、特定非営利活動法人、市民ボランティア団体等への助言、提案または技術的援助

【実施内容】・天若湖アートプロジェクト 2019 に後援した。

【実施場所】 京都府南丹市日吉町日吉ダム天若湖畔

【実施日時】 2019 年 6 月 1 日

### 4. 人と水との関わりに係る専門家、実践者、市民及び各種機関等の交流の場の創出

#### ○ホームページの作成・更新、ニュースレターの作成等

【実施内容】・河川塾のお知らせ等、積極的に情報発信した。

【実施場所】 事務局

【実施日時】 随時

#### ○他団体との交流やネットワークの拡大

【実施内容】・「全国水環境交流会」に積極的に参画する。

・「第 12 回いい川・いい川づくりワークショップ京滋大会(10/5-10/6 大津市・京都市)」、「いい川」づくり研修会・近畿(2/5)」等全国的なネットワークにも積極的に参画した。

・他団体との交流を目指した尼崎城外濠 E ポートクルーズの試運転(9/15)を実施した。

・神戸「農都ネット」と情報交換を行った。

・第 30 回トンボサミット(9/7-9/8 横浜市)に参画した。

・学生等のインターンシップにより、次世代につなげる連携を行った。

【実施場所】 全国

【実施日時】 随時

第18期（2019年度）特定非営利活動に係る活動決算

特定非営利活動法人近畿水の塾

2019年4月1日から2020年3月31日

(単位：円)

科 目	決算額	予算額	差異	備 考 (決算)
<b>I 収入の部</b>				
1 入会金・会費収入				
正会員会費収入	121,000	135,000	△ 14,000	3千*39、2千*2
賛助会員会費収入	8,000	8,000	0	1千*8
2 寄付金収入	0	0	0	
3 助成金収入	0	0	0	
4 事業収入				
調査・研究事業	5,000	20,000	△ 15,000	河川塾
シンポジウム等企画・実施事業	12,500	10,000	2,500	総会講演、拡大版（船）
助言・支援事業	0	5,000	△ 5,000	
交流創出事業	0	5,000	△ 5,000	
5 その他収入				
受取利息	8	1,000	△ 992	
当期収入合計（A）	146,508	184,000	△ 37,492	
前期繰越収支差額	833,820	834,000	△ 180	
収入合計（B）	980,328	1,018,000	△ 37,672	
<b>II 支出の部</b>				
1 事業費				
調査・研究事業	41,340	50,000	△ 8,660	河川塾講師謝礼、会場費
シンポジウム等企画・実施事業	50,340	200,000	△ 149,660	総会后、拡大版講師謝礼等
助言・支援事業	0	10,000	△ 10,000	
交流創出事業	18,999	10,000	8,999	尼崎城外堀クルーズ
その他事業	0	0	0	
2 管理費				
広告宣伝費	0	0	0	
給与手当	0	0	0	
水道光熱費（事務局）	0	0	0	
通信費	12,719	20,000	△ 7,281	切手、振込料
旅費交通費	51,500	30,000	21,500	
事務用品費	0	6,000	△ 6,000	
会議費	28,000	28,000	0	理事会会場費
減価償却費	0	0	0	
租税公課	0	0	0	
諸会費	0	0	0	
寄付金	0	0	0	
雑費	0	0	0	
3 予備費	0	10,000	△ 10,000	
当期支出合計（C）	202,898	364,000	△ 161,102	
当期収支差額（A-C）	△ 56,390	△ 180,000	123,610	
次期繰越収支差額（B-C）	777,430	654,000	123,430	

## 第 19 期（2020年度）事業計画 （2020年4月1日～2021年3月31日）

特定非営利活動法人 NPO 近畿水の塾は、第 19 期（2020 年度）の事業について、以下のとおり計画する。

### 1. 人と水との関わりに係る調査及び研究

#### ○継続的な公開研究会「河川塾」の開催

（前年度からの持越し、大滝講師による「京都カップ研究会」はじめ、候補は 20 塾弱）

【実施内容】・「私の関わる水環境」などをテーマに、会員を含め会員外の各自の仕事や市民活動等の取り組み紹介を「河川塾」で実施する。

・近畿各地で、川歩きなどフィールドワークを積極的に実施する。

【実施場所】 Atelier（アトリエ）CK 等

【実施期間】 2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日（月 1 回程度）

### 2. 人と水との関わりに係る事業の企画及び実施

#### ○各種イベント、出前講座の実施

【実施内容】・「琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム in 大阪一治水・環境・文化について考えよう」（11/21）に協力する。

・近畿各地から水環境保全に関心と関わりをもつ市民が集い、淀川流域の自然・文化・歴史を学ぶとともに、各地で進めている水環境保全活動を紹介し合い、よりよい河川環境保全と流域間連携のあり方について討論する「近畿水環境交流会 in 点野」を開催する（淀川まるごと体験会と共催。開催時期など未定）。

・猪名川・藻川まつり（9 月下旬）の中で、E ボートによる水面利用イベントを企画実施する。

・猪名川・藻川の合流点にある、「豆島」を活かした地域活動に参画する。

【実施場所】 藻川等

【実施日時】 2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

### 3. 人と水との関わりに係る行政機関、各種事業主体、特定非営利活動法人、市民ボランティア団体等への助言、提案または技術的援助

【実施内容】・天若湖アートプロジェクト 2020 に後援する。

【実施場所】 京都府南丹市日吉町日吉ダム天若湖畔

【実施日時】 2020 年 10 月 24 日、25 日

### 4. 人と水との関わりに係る専門家、実践者、市民及び各種機関等の交流の場の創出

#### ○ホームページの作成・更新、ニュースレターの作成、会員 ML の積極的利用等

【実施内容】・河川塾のお知らせ、会員情報等、積極的に情報発信する。

【実施場所】 事務局

【実施日時】 随時

#### ○他団体との交流やネットワークの拡大

【実施内容】・「全国水環境交流会」に積極的に参画する。

・「全国トンボ市民サミット・愛知豊田大会（6 月 8・9 日）に参加する。  
→コロナ騒動で来年に延期。

・「第 13 回いい川・いい川づくりワークショップ in 中部（岐阜県）」に参画する。

・神戸「農都ネット」と情報交換を行う。

・大島宮窪の川崎良重さんと情報交換を行う。

・学生等のインターンシップにより、次世代につなげる連携を行う。

【実施場所】 全国

【実施日時】 随時

第19期（2020年度）特定非営利活動に係る活動予算案

特定非営利活動法人近畿水の塾

2020年4月1日から2021年3月31日

(単位：千円)

科目	予算額	前年度決算額	差異	備考 (予算額)
<b>I 収入の部</b>				
1 入会金・会費収入				
正会員会費収入	0	121	△ 121	会費ゼロ
賛助会員会費収入	0	8	△ 8	会費ゼロ
2 寄付金収入	0	0	0	
3 助成金収入	0	0	0	
4 事業収入				
調査・研究事業	5	5	0	
シンポジウム等企画・実施事業	10	13	△ 3	
助言・支援事業	0	0	0	
交流創出事業	0	0	0	
5 その他収入				
受取利息	1	0	1	
当期収入合計 (A)	16	147	△ 131	
前期繰越収支差額	777	834	△ 56	
収入合計 (B)	793	980	△ 187	
<b>II 支出の部</b>				
1 事業費				
調査・研究事業	50	41	9	河川塾講師謝礼、会場費
シンポジウム等企画・実施事業	50	50	△ 0	総会后、拡大版講師謝礼等
助言・支援事業	0	0	0	
交流創出事業	0	19	△ 19	
その他事業	0	0	0	
2 管理費				
広告宣伝費	0	0	0	
給与手当	0	0	0	
水道光熱費	0	0	0	
通信費	20	13	7	切手、振込料
旅費交通費	50	52	△ 2	
事務用品費	108	0	108	コピー代、封筒、PC
会議費	28	28	0	理事会会場費
減価償却費	0	0	0	
租税公課	0	0	0	
諸会費	0	0	0	
寄付金	0	0	0	
3 予備費	10	0	10	
当期支出合計 (C)	316	203	113	
当期収支差額(A-C)	△ 300	△ 56	△ 244	
次期繰越収支差額(B-C)	477	777	△ 300	

決 算 報 告 書

第 18 期

自 平成31年 4月 1日

至 令和2年年 3月31日

NPO法人 近畿水の塾

## 貸借対照表

NPO法人 近畿水の塾

令和2年 3月31日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	円		円
<b>【流動資産】</b>	777,430	負債の部計	
現金及び預金	777,430		
		資 本 の 部	
		<b>【資本金】</b>	200,000
		<b>【利益剰余金】</b>	577,430
		当期未処分利益	577,430
		(うち当期利益)	( Δ56,390)
		資本の部計	777,430
資産の部計	777,430	負債及び資本の部計	777,430

損 益 計 算 書

自 平成31年 4月 1日

NPO法人 近畿水の塾

至 令和2年 3月31日

科 目	金 額	
		円
[経常損益の部]		
(営業損益の部)		
【売上高】		146,500
【売上原価】		
仕入高	110,679	
合 計	110,679	110,679
売上総利益		35,821
【販売費及び一般管理費】		92,219
営業利益		△56,398
(営業外損益の部)		
【営業外収益】		
受取利息	8	8
経常利益		△56,390
税引前当期利益		△56,390
当期利益		△56,390
前期繰越利益		633,820
当期末処分利益		577,430

販売費・一般管理費

自 平成31年 4月 1日

NPO法人 近畿水の塾

至 令和2年 3月31日

科 目	金 額	
		円
旅 費 交 通 費	51,500	
通 信 費	12,719	
会 議 費	28,000	
販売費及び一般管理費		92,219



# 特定非営利活動に係る事業会計財産目録

特定非営利活動法人 近畿水の塾

2020年3月31日現在(単位 円)


科目	金額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金	0	
普通預金	777,430	
流動資産合計		777,430
2 固定資産		
一括償却資産	0	
固定資産合計		0
資産合計		777,430
II 負債の部		
1 流動負債		
前受金	0	
短期借入金	0	
流動負債合計		0
負債合計		0
2 資本金		
資本金合計	200,000	
負債・資本合計		200,000
正味財産		577,430

# 監査報告書

平成31年4月1日から令和2年3月31日までの第18期事業年度の活動決算書、貸借対照表、財産目録、事業報告を監査した結果、適正かつ正確であることを認めます。

令和2年 5月 10日

特定非営利活動法人近畿水の塾

監事（署名・捺印） 小峰 朋子 

**NPO 法人近畿水の塾**

**2019 年度事業詳細報告**

**2020 年 6 月**

## 継続的な公開研究会『河川塾』の実施

### 1. はじめに

2000年（平成12年）9月に八幡市で開催した「川に学ぶシンポジウムin近畿」の後、実行委員が川に関する人のネットワークの継続や知識の習得を兼ねて、摂南大学澤井教授を中心にスタートし、2002年（平成14年）年8月よりNPO法人近畿水の塾事業の一つとして継続している。

### 2. 実施内容

河川を楽しく、幅広く、実験・具体例（フィールドとしてピオトープづくりや河川蛇行実験など）を併せて判りやすく学ぶこと、様々なセクターからの受講生が時の話題・情報を提供する。

第1回は2000年11月に始まり、2019年6月の総会記念講演で195回を迎える。受講生は、学生・行政担当者・コンサルタント・市民など会員及びその紹介を受けたもので、2000、2001年は河川の基礎工学シリーズ、特別フィールドシリーズ（ワーキング）、2002年はマイリバーシリーズ、2003年は河川関連法（自然再生から淀川を例とした河川整備計画）、2004年は淀川の整備計画と水資源、付替え300年を経た大和川など、2005年は琵琶湖・淀川、都市と農、市民参加型公共事業など、2006、2007年はマイジョブ&リバーとして会員の仕事と川への関りなど、2008年はマイジョブ&リバー、流域委員会シリーズ、古者に聞くシリーズ、2009年はマイジョブ&リバー、番外編を中心に10年を経て第100回記念企画、2010年はマイジョブ&リバー、流域委員会シリーズ、2011年からはマイジョブ&リバーなどを中心に展開し、また参加費（資料代）を会員外500円、会員無料とし参加の枠を広げている。

当初は河川情報センター6F会議室をお借りし、平成17年からは大阪府環境情報プラザ、平成28年からは主会場を天神橋3丁目のAtelier CKに移し開催しているが、令和元年末に中国武漢で発生し、世界にパンデミックをもたらした新型インフルエンザウィルス（COVID-19）により令和2年3月以降の開催を自粛している。

200	11/2	（拡大版）大阪水の回廊南半周を見る、話す 杉本容子（株式会社ワイキューブ・ラボ代表） 武田重昭（大阪府立大学大学院准教授）
201	2020 1/22	ワークショップ思考と政治性 下村泰史（会員、京都造形芸術大学准教授）
202	2/5	（拡大版）いい川づくり研修会in近畿 / 災害 復旧と多自然川づくり（尼崎市総合文化センター） NPO法人全国水環境交流会・NPO法人近畿 水の塾共催、国土交通省近畿地方整備局・兵 庫県後援

### 3. 成果

近畿における川や水辺に関する知識に留まらず多角的な知識を得、時の情報を共有でき、また各地での活動を知り、様々な個人・団体との交流が図れた。

### 4. 今後の課題

- ・事前に講座・フィールドの希望内容を会員より収集
  - ・会員・受講生より得た情報などから、不定期に新たな知見を得られるシリーズ（フィールド・講座）の設置
  - ・二級河川の流域連携
- など、新年度に向けた内容等を検討する必要がある。

### 5. その他

今後の具体の予定として、

- ・マイリバーを継続して、情報を蓄積し交流を図り、またこれらを紹介しながら川の評価基準により表彰する
  - ・河川踏査、写真・資料収集等
  - ・干潟事例報告、提案
  - ・環境学習の検討報告
  - ・河川で合宿 フィールドワーク
- などを検討中である。

（報告 西河嗣郎）

回	月/日	内 容
196	2019 7/17	森林経営管理法と森林環境税 栗本修滋（大阪府森林組合組合長）
197	8/21	大地震に備える 宇井 忠英（NPO法人環境防災総合政策研究 機構非常勤理事、北海道大学名誉教授）
198	9/28	（拡大版）天王寺動物園「生態展示」の立案 者と巡る天王寺公園 若生謙二（会員、大阪芸術大学教授）
199	10/16	介護保険制度とともに～医療法人菫会の19 年 味八木郁雄（会員、整形外科医）

## (2) 人と水との関わりに係る事業の企画及び実施

### 近畿水環境交流会 in 宇治川・伏見みなと

■日時：令和元(2019)年7月27日(土)～7月28日(日)

■場所：京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー・伏見みなと広場

#### ■7月27日(1日目)

一日目の京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリーでは、午前は子どもの水辺活動に関する発表があり、午後は、近年の水災害への防止軽減策や巨椋池遊水地構想、各団体の活動紹介を行いました。

#### ■7月28日(2日目)

二日目の伏見みなと広場では、朝から清掃活動を経て、伏見十石舟の乗船体験を行いました。その後は、三栖閘門資料館を見学しました。また、他の体験として、川柳を詠んだり、キーホルダーを制作しました。

午後からは、豪川でEポートレースを行い、「ギョッターズ」(大阪府河川室)が優勝し、連覇しました。前日に大雨が降ったことにより、水位が上がっていないか不安でしたが、無事開催できて良かったです。(M.K)



十石舟の乗船体験の様子

#### ■スケジュール

1 日目：京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー流域災害研究センター本館 1 階セミナー室

##### ●午前の部

09:30-10:00 受付

10:00-10:10 開会挨拶 実行委員長 水辺に学ぶネットワーク 澤井健二

##### ●活動紹介

10:10-10:25 京都市立池田小学校

10:25-10:40 京都市立春日野小学校

10:40-10:55 大阪市立新北島中学校

10:55-11:55 大阪・淀川教材研究会

11:55-12:00 講評：アクアフレンズ 美濃原弥恵

12:00-13:00 休憩

##### ●午後の部

13:00-13:30 巨椋池流域模型ピオトープ見学 (案内 今堀浄、大西美好、奥田重徳)

13:30-13:35 挨拶 実行委員長 水辺に学ぶネットワーク 澤井健二

13:35-13:40 祝辞：京都市伏見区まちづくり振興課長 村重勝則

13:40-14:25 特別講演：「近年の水災害とその防止軽減策」：京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー施設長 中川一

14:25-15:00 報告：「巨椋池干拓地遊水地構想」について 淀川流域勉強会 澤井健二

15:00-15:10 報告：「潮汐力を利用した治水構想」 海洋の空研究グループ 赤井一昭

15:10-15:20 休憩

##### ●活動紹介

15:20-15:30 草津コハクチョウを守る会 吉岡美佐子

15:30-15:40 琵琶湖・淀川流域圏連携交流会 鈴木康久

15:40-15:50 大和川市民ネットワーク 辰谷直子

15:50-16:00 近畿子どもの水辺ネットワーク 市川勝己

16:00-16:50 討論

16:50-17:00 閉会の辞：河川協力団体近畿連絡会副代表 中谷恵剛

17:00-18:30 懇親会

2 日目：伏見みなと広場

##### ●午前の部

08:30-9:00 受付・河川清掃

09:00-9:30 開会式

09:30-12:00 種々の水面利用の実施(十石舟乗船、川柳、キーホルダー製作、他)

12:00-13:00 休憩

##### ●午後の部

13:00-15:00 Eポートレース

15:00-15:30 閉会式&後片付け

1 日目は 80 人、2 日目は 70 人の参加があり、近畿圏内の水環境に関わる市民団体の交流が広がった。

(以上、近畿水環境交流会実行委員会報告書、ヨドリック 87 号などから転載：文責：久保田：石田)

## ホームページの作成・更新等についての事業報告

### 1. はじめに

当会では平成 14 年 9 月 15 日にホームページを立ち上げ、会の概要、入会方法、事業内容、活動報告などを公開している。

また、会員はメーリングリストに登録し、会員間の情報交換を常に行っている。

### 2. 実施内容

ホームページの内容は以下のとおり

- (1) 当会の概要等
  - ・ 入会方法
  - ・ 設立の経緯、総会資料
  - ・ 会員紹介のコーナー など
- (2) イベント情報
  - ・ 当会主催のイベント案内
  - ・ 河川塾案内
  - ・ 他団体のイベント案内
- (3) 活動報告
  - ・ 当会の活動報告
  - ・ 新聞記事掲載
- (4) リンク集
  - ・ 水環境等の市民団体等のリンク集

### 3. 成果

随時更新を行い、常に最新情報を発信した。過去の報告も掲載しているため、会員の資料室としての利用もされている。総会資料についても掲載している。

なお、開設当初から利用していた Yahoo!ジオシティーズサービスが平成 31 年 3 月末で終了したので、平成 30 年 12 月 29 日に以下のサーバーに引っ越した。

<http://kmizunojuku.kachoufuugetu.net/>

スマホでは広告が少し邪魔になりますが、パソコンでは広告も少なく見やすいです。

### 4. 今後の課題

- ・ イベントの案内だけでなく、川に関わる活動をしている団体や個人の紹介をするなど内容充実を目指す。
- ・ 他のホームページにリンクしてもらい広く閲覧してもらうように工夫する。
- ・ <http://kmizunojuku.kachoufuugetu.net/>  
ブックマーク、名刺に印刷をお願いします。

(報告者：安田 博之)



## 第12回 いい川・いい川づくりワークショップ in 滋賀・京都

- 日時：2019年10月5日(土)・6日(日)
- 場所：(5日)ピアザ淡海・(6日)コラボしが21
- 主催：いい川・いい川づくり実行委員会  
いい川・いい川づくりワークショップ琵琶湖淀川水系大会in京滋 現地実行委員会
- 応募：37団体(台風の影響のため1団体欠席)
- グランプリ：兵庫県明石川『玉一アクアリウム』
- 全体選考結果(画「グラフィックレコーディング」)



### OSDGs とはなにか

最も印象深かったのは十勝川。復元可能な分しか獲らないというアイヌの文化。「必要なものだけ」にではなく「持続可能な社会」の原点はここだとあらためて気づかされました。(南 隆雄記)

### 〇気づきのテーマ

- ・先ずは「環境との共生・再生の技術、知恵、文化」の発表が多かったですね。中でも、「十勝アイヌ」の小川さんの「食べられる範囲」ではなく「復元可能な範囲での収穫」。この倫理観は、非常に印象に残しました。
- ・そして、「ごみテーマ」：下流ゴミ拾いに若者連携の「伊勢湾・奈佐の浜」。上流に、そして全国に行っている「釣り人によるゴミ拾い」、これを単なる行為行動から釣り人の文化にしようとする取組。そして、「全国川ゴミネット」では、その量を判りやすくデジタルに提示。
- ・もう一つ、「食」：発表で目立ったのは「小佐治のモチ米」位でしたが、全プロジェクトの裏に隠されていると思います。「いい川は、いい食を産む」は、僕の持論でもありますが、発表以外に、懇親

会で全国から持ち寄られた「川の恵」。そして、昨日の選考委員の自己紹介。滋賀県の青田さんの「世界農業遺産」！

- ・ちょっと違う視点ですが、このWS全プロジェクトの時間視野の広さ。1040～1080年。900年前から続くアイヌ文化。毎年一本の源流の碑建立、140支流の140年先。シーボルトの180年先を、900年前にプラスするなら、計1080年！！この視野の長さ！
- ・個別に印象に残したキーワード幾つもありますが、とりわけユニークだったのは「豆島」。豊かだった環境を何とかしたいと言うプロジェクトの多い中。新誕生の小島、しかも外来種だらけと言う「豆島」のプロジェクトは、今後へ非常に示唆的であった。

### 〇共通項

- ・こうした発表を聞いて、「環境権時代の到来」を予感した。我々人間の環境享受権ではなく、それぞれの場所が持つ環境・場所の悲鳴。あるいは、「もっといい事して！」と言う当該地環境からのヘルプ。近年やっと、様々な人達の人権が語られるようになった。その人権と同様、それぞれの環境・場所そのものからの声を聞く必要に気付き始めた我々。アイヌ小川さんの「我々の食べられる範囲」ではなく「環境の復元可能な範囲での収穫」は、正しくその例ではないか！！
- ・そして、世代交代話題。それは、「我々世代いい事してきた」からの引継ぎは、上から目線でないだろうか？
- ・最近話題のスウェーデンのグレタさん。僕は少し前なら、16歳には「グレタちゃん」とチャン付けで呼んだ。新世代グレタさんからの悲鳴に、もっと真摯にならなければいけない。
- ・19世紀以来、所謂、近代化・発展志向の我々は、地球からの借地であるこの環境に「悪さ」をして来た。借地を借主に返す時、グレタさん世代に返す時、それを更地にして返さないといけない。そうして、新世代に引き渡す義務がある。
- ・新世代誕生。何も、外国のグレタさんだけではない。横浜トンボサミットでは、ほぼ会が終わった時、蛇足的に、最前列に居た小学校3年生位の少年が挙手して「僕はトンボが好き。トンボの住んでる所が好き。大人になった時そんな環境であって欲しい」と発言。その毅然さに驚いた。そして、昨年、衝撃の登場の標茶高校生の再登場！！

(福廣 勝介記)

(報告 福廣 勝介・南 隆雄)

#### (4) 人と水との関わりに係る専門家、実践者、市民及び各種機関等の交流の場の創出

### “いい川”づくり研修会・近畿

- テーマ：災害復旧と多自然川づくり
- 主催：NPO 法人全国水環境交流会  
：NPO 法人近畿水の塾
- 後援：国土交通省 近畿地方整備局  
：兵庫県
- 助成：河川財団・河川基金

■日時：2020年2月5日(水)  
受付9:30～ 10:00～16:00

■場所：尼崎市総合文化センター 7F 第2会議室

#### ■プログラム（氏名敬称略）

- 10:00：開会挨拶・趣旨説明 山道省三
- 10:10：講座1 川那部浩哉
- 10:50：講座2 島谷幸宏
- 11:30：講座3 紘本孝市
- 12:00：＜昼食・休憩＞
- 13:00：講座4 吉村伸一
- 13:40：報告1 怡土義博
- 14:05：報告2 中井良太
- 14:30：＜休憩＞
- 14:45：全体討論
- 16:00：閉会

#### ■参加費：無料

別途、「多自然川づくりポイントブックⅢ」を  
2500円で希望者に販売

#### ■参加者：募集定員90名。

合計89名。(内、NPO法人近畿水の塾関係者15名)  
内訳：市民39名。学識・研究者4名。学生3名。  
行政13名。企業30名。

#### ■開催趣旨

国土交通省防災課は、平成30年6月に「美しい山河を守る災害の復旧方針」を改定し、今後の災害復旧に当たり「多自然川づくり」の考え方、技術に準ずるとしました。本研修会はこの改定に着目し、河川及び流域環境管理と災害復旧のあり方、方策について、研修を行います。河川から流域へ対策領域を広げようとする折り、現場が抱える課題解決に向け、糸口となる議論が出来ればと考えます。参加呼び掛けは、河川管理者及び事業者、地域住民、学識者、学生等広範に呼びかけ、議論に参加してもらうことを期待します。(全国水環境交流会・山道)

#### ■開催の経緯

我々、NPO法人近畿水の塾は、全国水環境交流会に、長年、情報提供を受け、指導も受けている。そんな、全国水環境交流会が、毎年、地方を行脚して、多自然型を中心とする川づくり研修を実施していて、初の近畿開催を共催でとの呼びかけが

2019年10月頃にあった。力量不安もあったが、我が方は、会場探しと、参加者広報。希望があれば、講師推薦も可能との事で、その申し入れを受け、快諾した。

今迄の講師リストを見ると、確かに多自然型工法達者の面々である。ここは、一つ、川を工学だけで見るとではなく、全体自然として、観ている先生に登場して貰って、画期的な議論をして貰えたら、と考えた。すなわち、生態学の泰斗、仏国から、レジオンドヌール賞も受けられてる川那部浩哉博士である。幸い、淀川流域委員会以来の知己を得たので、打診をしてみると、超高齢、京都山科からの遠路を厭わず、おいで頂けるとの事。但し、先生ご本人が、国交省河川には、相当、喧嘩を売ってきたから、向こうから拒否ではないかとの懸念を示されたが、そこは山道省三。国交省に文句は言わせない！で決まったのである。山道氏は、今回は従来と違って、随分哲学的な会になるだろうな。と歓迎してくれた。そうしての講師の実現である。

会場については、当初大阪市内で探したが、既に満杯であったり、高額であったりで難渋していると、ここは頼りになる我が尼崎メンバー。訳なく条件に合う会場を確保してくれた次第である。

#### ■開催結果

参加者としては、当初狙って、後援挨拶にも伺った、府庁関係者や、学生さんが不調だったのは残念だったが、我が武庫川方面関係者の働きもあり、そちらからの参加者多数は流石であった。会場設定などについても、我が面々、支援要請は受けてなかったが、当座の動きの良さは頼もしい限りであった。

さて、内容であるが、参加者アンケートを見ると、概ね好評、殊に講師陣に評価が高かった。福廣個人の感想を少々。

川那部語録「里山は作れない。しかし、里暮らしをすると、黙って里山は出来て来る」「今の時代、資本主義ではない。資本を使って国民を豊かにするのが資本主義だから、自分を肥やすだけなら資本主義津は言わない」

その他

- ・鮎研究のフィールド宇川に潜ったのは2000日以上と言う。現場行と言うのは、こう言う事。
- ・島谷さんの、実に謙虚で丁寧な話しぶり。流石は川那部先生の隣席。先生が「多自然」「川づくり」と言う言葉が嫌いなのを、よく知っているの進行。「つくる」を一生懸命弁解。いい先生に出会うと、本人も、うんと成長、いい男になる。

この二人討論会でも良かった。

(以上、報告：福廣)



## 尼崎城外堀クルーズ試験航行について

庄下川は、江戸時代には尼崎城の外堀であった。舟運に活用された史実にもとづき、庄下川を手漕ぎボートで周遊することにより、市民の関心を河川や周辺景観に取り戻し歴史に思いを馳せ尼崎城一帯の魅力向上を目指す。

将来的に、イベント等で広く市民に乗船していただくことを計画しているが、今回は、関係者のみの乗船の試験運行とする。

- 日時：令和元年(2019)年9月15日(日)
- 場所：阪神尼崎駅東側の庄下川左岸にて乗船  
庄下川を南進 戎橋付近で東進し大黒橋付近で折り返し乗船場所に戻る。  
全行程約2キロメートル。
- 運航者：摂南大学エコシビル部
- 主催者：NPO 法人 近畿水の塾
- 当日の担当者：白樫、南、安田(近畿水の塾理事)
- ボートの搭乗人数：10人
- ボートのサイズ：長さ：6.5m幅：1.4m高さ：0.57m。ゴム製で空気を注入により膨らませる。
- 安全対策：全員に救命胴衣を着用させる。

(報告 安田博之)



親水護岸からEボートを慎重に下ろします



尼崎城を西側から眺めます。



江戸時代は外堀であった庄下川を南下します。



江戸時代の絵図で白樫理事のツアーガイド。



開明橋南側



阪神電車をくぐり、乗船場所に戻りました